



長和殿のベランダからお手を振られる天皇皇后両陛下（宮内庁提供）

「新しい年をともに祝うことを誠に喜ばしく思います。年頭にあたり、国民の幸せと世界の平安を祈ります」
天皇皇后両陛下は皇族方と二日、皇居・宮殿の東庭で行われた新年恒例の一般参賀で、長和殿のベランダに立たれてお手を振られ、天皇陛下がお言葉を述べられました。両陛下がベランダに出られたのは七回、静養中の皇太子妃雅子さまは午前中の三回。参賀者は、午後からの雨の影響か、平成に入って最も少ない五万二百十人でした。両陛下の今年のご予定は、五月に全国植樹祭で岐阜県、九月に国際顕微鏡学会で北海道、十月に全国豊かな海づくり大会で佐賀県を訪問されることになっています。皇太子ご一家では、四月に、敬宮愛子さまが学習院幼稚園に入園されます。

「国民の幸せ祈ります」

天皇陛下一般参賀に5万人



(題字・大槻文平初代会長)
(毎月1回 10日発行)
発行所
財昭和聖徳記念財団
〒190-0012
東京都立川市曙町2-34-13
オリンピック第3ビル
電話 (042)522-2451
FAX (042)522-7747
http://www.f-showa.or.jp

昭和天皇御製
庭のおもにもる雪みてさむからむ
人をいともおもふけさかな
昭和二十四年

香淳皇后御歌
あさひかげうららにさしてみほべの
松のこずゑの雪ぞかがよふ
昭和二十四年

ひと口メモ
昭和24年1月、占領下の日本はGHQの許可なく「日の丸」を使用できなかったが、3年ほどは我慢が必要だった。

清流抄
「シモバシラ」といふものがある。きびしい寒さの朝、土中の水分が凍結して水柱となり、地表の土砂を押し上げる現象のことではない。シソ科に属する多年草で、やはり冬の寒い朝、枯れた茎を毛細管現象で上昇した水分が氷結してガラス細工の造花のようにみえる植物のことである。暖かくなると溶けてしまってお目にかかれない▼昭和天皇がお住まいだった吹上御所の前庭にもひっそり生えていて天皇が生前よく愛された野草の一つであったといわれる。別名雪寄せ草ともいわれるこのシモバシラは昭和記念公園のこもれびの丘にも生えている▼他の草木とともに公園の職員の手によりひとつひとつ名札がつけられていて、名もなき「雑草」として十把ひとからげに扱われる運命から免れている。昭和天皇もさだめしき満足のことに思う▼こもれびの丘から少し足を伸ばせば日本庭園がある。造園後まだ十年に満たないが、そのうち昭和天皇のご長命だった後水尾天皇が造営された京都の仙洞御所や修学院離宮のような風格が備わっている日のことを期待しながら、昭和天皇記念館に来訪されたついでに池のほとりをそぞろ歩きをすることもまた一興であろう。(Y)

昭和天皇記念館を見学して

表して鈴木美男事務局長、金子才十郎支部長に感想を書いていただきましたので、ここに紹介させていただきます。



バス2台で来られた群馬県支部の皆さん。金子支部長は後列、皇居にあった飾電燈から左へ2人目



昭和天皇記念館をバックに音更支部の皆さん。前列、左から3番目が鈴木事務局長、五番目が橋正義支部長

群馬県支部長 金子才十郎
昨年十一月二十七日に待望の昭和天皇記念館が開館、群馬県支部として一年前から計画していた見学会を、国内を隈なく巡幸されてきた財団本部のご了解のもと、開館間もない十二月七日に実施いたしました。昭和天皇のご在位六十年に及ぶ中での遺品、お写真等のほか、生涯のテーマとして余暇に熱心に取り組まれた生物学、津々浦々にまで及んだ協賛の成果も展示されて、感銘深いものがありました。特に、大東亜戦争終結時に自らの意思をお示しになったマッカーサー元帥との会見や戦後に元官房長官の福田康夫先生、財団本部の藤村正哉理事長にはわざわざお越しい願って、見学会をともにしていただき説明願ひましたこと、厚く御礼申し上げます。また、見学会の諸事方端にわたりお世話になりました中曾根吾郎参事に深く感謝いたします。

音更支部事務局長 鈴木 美男
広大な管理の行き届いた公園の中の記念館、正面には長門保明館長を模した模型を拝見、同伴の妻に説明すると、何か心の晴れた感じがしました。ただ、一番のご珍念で、昭和天皇記念館の開館日はいつか？—何度も本部事務局に照会、併せて御陵参拝・皇居参観の手続き等、煩わすことも多かったです。点に見入っています。陛下のお側近くのご感
適切な計らいで待ちに待った日かきたのです。一行三十四名は先ずは高尾の御陵に詣で、「北海道から参りました」とご報告し、御霊の安らかなるを祈念致しました。そして念願の記念館へ。
「昭和天皇記念館の開館日はいつか？—何度も本部事務局に照会、併せて御陵参拝・皇居参観の手続き等、煩わすことも多かったです。点に見入っています。陛下のお側近くのご感
適切な計らいで待ちに待った日かきたのです。一行三十四名は先ずは高尾の御陵に詣で、「北海道から参りました」とご報告し、御霊の安らかなるを祈念致しました。そして念願の記念館へ。
「昭和天皇記念館の開館日はいつか？—何度も本部事務局に照会、併せて御陵参拝・皇居参観の手続き等、煩わすことも多かったです。点に見入っています。陛下のお側近くのご感
適切な計らいで待ちに待った日かきたのです。一行三十四名は先ずは高尾の御陵に詣で、「北海道から参りました」とご報告し、御霊の安らかなるを祈念致しました。そして念願の記念館へ。」